1. プログラムの問題点・課題点

本事業において、本学は、タイの3大学、インドネシアの3大学との間で修士課程学生を対象とした共同教育「PARE プログラム」を実施している。

本プログラムに参加する学生のうち、本学学生は、タイもしくはインドネシアのパートナー校への留学（留学先のパートナー校において PARE プログラムのために提供する科目2単位以上取得を課している）をプログラム修了要件の一つとしているが、個々の修学スケジュールや就職活動としての兼ね合いから、パートナー校への留学に躊躇している学生が少なからずおり、そうした学生に対する留学の動機付けに苦慮している。今後は、プログラムにおける教育内容の更なる充実は勿論のこと、今後実施する予定となっている就職支援プログラムを充実させることで、学生にとってより魅力あるプログラムを提供していきたい。

2. グッドプラクティスの事例

✓ 北海道大学内の5大学院、インドネシア・タイの6パートナー校を束ねるセントラルオフィスを立ち上げ、専属スタッフを置くとともに、各パートナー大学にリエゾンデスク機能を担う担当者を置くことにより、各大学院、パートナー校との連絡体制が構築された。また国際運営委員会、国内運営委員会および教育コンテンツ委員会を設置し、これら委員会の枠組みを通じて、プログラムの運営体制を確立した。

✓ 本プログラムの質の向上のために、国際運営委員会メンバーによるファカルティ・ディベロプメント（FD）ワークショップを開催した。

✓ 地理的、時間的な制約を克服し、円滑なプログラム運営を図るとともに効果的な授業の実施を行うため、会議（授業）資料を共有しながらコミュニケーションができるウェブ会議システム（V-Cube）を導入した。これにより、TV 会議システムのように特定の場所、機材を要することなく、パートナー校の教員、学生とコミュニケーションを図ることが可能となった。

✓ 上記システムの導入を受け、5月には3カ国・10地点を結んで国際運営委員会を開催した。また、6月からは実際の授業に活用している。